地すべり学会東北支部

『第15回総会』・『地すべり発表討論会』参加報告

㈱東開技術　藤　村　正　二

本年度の地すべり学会東北支部『第15回総会』及び『地すべり発表討論会』が、平成11年6月4日午前9時45分から東北学院大学90周年記念会館で開催されました。また同日、同場所で本部の『地すべり学会平成11年度総会』及び『平成11年度地すべり学会シンポジウム』（支部の『地すべり発表討論会』に併せて実施）も開催されました（参加者約240名）。

支部総会・本部総会

同日、まずはじめに支部の総会が行われました。総会は副幹事長・千葉則行氏の進行で支部長・盛合禧夫氏の挨拶に始まり、東北地方の災害について、平成10年8月末の豪雨、岩手山火山および南西部の地震、十和田奥入瀬の地すべりなどについて東北支部として調査団を結成してそれぞれ対応しているが、今後とも産・学・官、皆様のご支援と、より一層の協力を要請されました。

議事は第1号議案から第5号議案まで審議されました。特に平成11年度事業としては、15周年記念誌の発行準備に取り掛かること、また5周年記念事業を本年度で決済する方向で検討することなどが満場一致で採択されました。

引き続いて本部の総会が行われ、桧垣大助氏の進行で会長・古谷尊彦氏が挨拶し、現在法人化が進められていることや、学会を通して技術力を向上させていこうという提言がなされました。

来賓挨拶は宮城県砂防水資源課長・星野和彦氏が務め、行政の立場から人為的誘因による地すべりに対する対策が永遠のテーマであり、効果的な対策工を皆さんと共に模索していきたいと挨拶されました。

議事は第1号議案から第6号議案まで満場一致で採択されました。

シンポジム・地すべり発表討論会

『平成10年度斜面災害・土砂災害の特徴と実態』

(1)　趣旨説明

支部長　東北工業大学　盛合　禧夫　氏

(2)　東北地方における地盤災害特性

東北学院大学　宮城　豊彦　氏

(3)　1998年8月末豪雨に伴う福島県南部の斜面災害

日本大学　梅村　順・森　芳信　氏

(4)　西郷村で多発した斜面崩壊の地質的要因

京都大学　千木良雅弘　氏

(5)　リングせん断による高速地すべりのメカニズム―福島県西郷村稗返地区の高速長距離運動地すべりについて―

京都大学　佐々恭二・汪発武・王功輝　氏

(6)　那須・白河集中豪雨の解析

㈶日本気象協会　牛来　充　氏

(7)　1998年9月3日岩手山南西部の地震に伴う斜面災害と計測技術

岩手大学　大河原正文　氏

(8)　新潟・佐渡地域における土砂災害

新潟大学　丸井　英明　氏

総会終了後、午前11時10分からシンポジウムが開催されました。支部長の趣旨説明では、話題提供された７件は東北支部地すべり発表討論会にとってタイムリーな話題であり、通常考え難く、かつ予知・予測の困難な現象の特徴を把握し、その機構を解明することは本学会に課せられた課題であると述べられました。

プログラム(2)、(3)、(4)、(5)、(6)、(8)では、昨年８月末の東北地方南部、北関東及び新潟などで発生した豪雨災害についてそれぞれの立場から報告がありました。

昨年８月末の豪雨災害は時間雨量50mmを越える豪雨が２回続き、総雨量も1,200mmを越え、斜面災害が2,000ケ所以上で発生したものであり、特に中小規模の崩壊で多くの死者を出すなど（西郷村・大信村などの福島県南部中心）、緩斜面において崩壊が発生しました。この災害では崩落した土塊が高速で長距離を移動した現象がみられ、またこのような状況の中で、近接した斜面では災害（斜面崩壊）が発生しないところもあり、複雑な崩壊機構が示されています。

報告では地形・斜面プロセスの面からの斜面災害の特性、特徴的な崩壊機構、崩壊の地質的要因、せん断試験による発生運動機構の解明、豪雨時の崩壊の発生機構を気象観測事実から解明する試み、佐渡における土砂災害などが紹介されました。

プログラム(7)では岩手山南西部の地震に伴う斜面崩壊と落石の事例の紹介、二次災害防止のための光ファイバ歪みセンサーと高精度傾斜計の計測技術の今後の方針などの提言がありました。

午後４時から総合討論に移り、まず地質と地形では、上部谷壁斜面・谷頭凹地部の崩壊、また基盤構造、スコリア層における地下水経路と崩壊発生の機構などについて活発な討論がなされました。さらに豪雨などの気象では、降雨強度の統計的な報告が少ないことから、データベースの構築が必要であること、また予報される時間雨量に対しての災害発生頻度や分布を明確にしていく必要があることなどの提言がありました。今後学会としては、トータル的に系統だてて方向を示していく必要があることがまとめとして示されました。

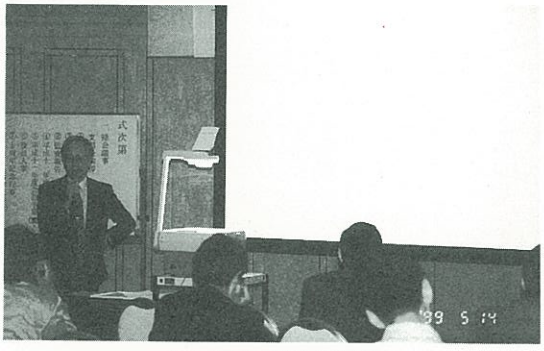
討論会は５時30分過ぎには終了し、最後に東北支部現地検討会を10月１日（金）～２日（土）に秋田県で開催する旨の案内がありました。その後午後６時から場所をホテルメトロポリタン仙台に移して、講師の方々を交えた参加者80名で懇親会が盛会に行われました。

日本応用地質学会東北支部総会

日本工営㈱　中曽根　茂　樹

日　　時　平成11年５月14日〔金〕
　　14：00～17：00
場　　所　仙台サンプラザ　５Ｆカトレア
出 席 者　53名＋委任状74（東北支部会員数215）
主な議題
　１）平成10年度支部活動報告および会計報告
　２）平成11年度活動計画と予算案の承認
　３）役員人事承認
　４）10周年記念行事計画承認

総会に提案した議案については、すべて原案どおり承認された。



田中先生の特別講演

これに基づき幹事会を招請し、主な行事予定を取り決めた。（６月10日）

本年度の主な行事予定は、次のとおりである。

１）総会・特別講演会（５月14日）
２）現地見学会（９月３～４日）
　・仙人トンネル（国道283改良工事）
　・三陸大気球観測所
　・鷹生ダム（岩手県）　など
３）講習会（ミニシンポジウム）「斜面地質」（11月５日）
４）研究発表会（平成12年１月28日）

また、10周年記念行事としてオーストラリア応用地質研修旅行を実施することが承認された。このための企画委員会も発足し、本年度からの予算措置も承認された。この企画の骨子は次のとおりである。

実施時期：2000年末～2001年初め頃
全 工 程：移動日を含めて10日程度
費　　用：交通費・宿泊費込み30～40万／１人程度
想定人数：25～30名
主な見所：アデレード周辺のプレカン～カンブリアンの地質構造と化石、パース周辺の構造物、現生ストロマトライト、縞状鉄鉱鉱床

今後東北支部会員・賛助会員に旅行参加者をつのり企画を実りあるものにすることが望まれる。東北地質調査業協会の会員の皆様にもぜひご参加・ご協力いただけますようよろしくお願い申し上げます。

なお、総会の特別講演として応用地質学会副会長田中芳則氏を迎え、「割れ目と崩壊」というテーマでお話をいただいた。応用地質学会論文賞をいただいた氏の扇射探索法に関する解説と割れ目が寄与する崩壊実験結果などについて興味あるお話であった。また岩盤の亀裂のモデル化と解析手法の整合性などについて注意すべき点などを教えていただいた。さらに、最近の応用地質学会の取り組みとしてエイペックエンジニア制度に関する話題提供と問題提起をされた。この制度は、ＩＳＯとともに日本の地質技術に関わる私たちにとって注視していく必要があるものである。今後、学会本部や大学などと連携を深め、世界に誇れる日本の地質技術者の育成にさらに努力していく必要がある。

このような問題提起もあったこともあり、総会

後の懇親会は盛況であった。特に見学会やオーストラリア旅行に関する話題でもちきりとなった。なごやかな会場の雰囲気もあり、田中先生もアットホームな東北支部の活動に大変感激しておられた。今年１年の東北支部活動の前途を期して、総会参加者の決意も述べられた。いつもどおり時間があっという間に過ぎてしまった。

懇親会のようす